



平成 30 年 10 月 29 日  
佐賀大学理工学部

## 佐賀市適応指導教室「くすの実」で大学院生らが理科実験教室を実施(5)

### 【概要】

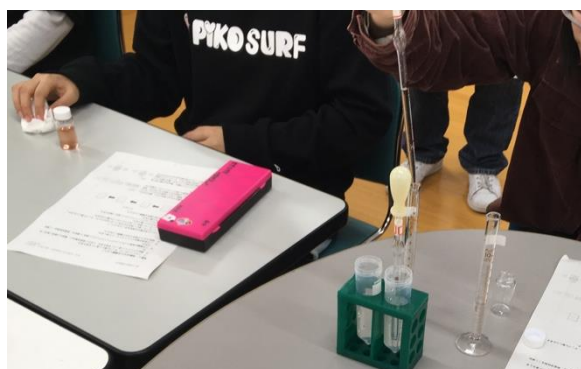
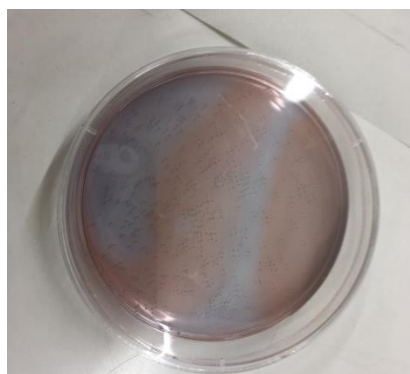
休日夜間こども診療所跡に移転した不登校支援機関の適応指導教室「くすの実」にて理工学部の教員と循環物質化学専攻大学院生らが本年度5回目の理科実験教室を実施しました。

### 【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である適応指導教室「くすの実」の要請により、理科への興味をきっかけに子供達の就学意欲を惹起することを目的に平成17年から行なっています。

本年度第5回目の理科実験教室は、10月に移転された休日夜間こども診療所跡の施設で平成30年10月19日(金)に行われ、循環物質化学専攻の大学院生、機能物質化学科の大学4年生が理工学部機能物質化学科 長田 聡史 准教授とともに「色が変わる溶液を作ってみよう!!」と題して、酸素酸化で着色が起こる反応や振動反応として知られる Belousov-Zhabotinsky 反応を体験しました。

サンプル管を振るだけで青色に変化する液体や時間変化で青色と赤色が交互に変わる反応を、生徒たちは不思議そうに眺めていました。化学反応として周期的な変化を起こす現象は、発見当時は学会で信じてもらえなかったことや、Belousov-Zhabotinsky 反応が終了したとされていた溶液を放置していたら反応が再開することを2008年に女子高校生たちが発見して、その後専門誌に掲載されたことを紹介し、実験観察の大切さを教えました。



Belousov-Zhabotinsky 反応 (左) 「理科実験教室」の様子 (右)